

第4回 中村川 流域治水 緊急対策 推進会議

<会議概要>

「中村川流域治水緊急対策推進会議(令和4年11月25日設置)」の第4回会議を開催しました。
会議では、第3回会議で決定した8つの緊急対策メニュー、25の取組について、**令和5年度の取組内容**や今年度開催した**住民説明会を踏まえた対応等**について情報共有を図りました。

<概要>

日時：令和5年9月20日(水) 13:30~15:00
場所：ウェディングプラザ アラスカ
出席者：別添出席者名簿の通り

<議事>

- (1) 緊急対策の実施状況報告
- (2) 住民説明会の結果と今後の対応

<情報提供>

東北地方整備局：「“流域治水”の実践に向けて」

<結果>

- ・今年度の取組内容について情報共有を図るとともに、取組に対する意気込みや課題等についても構成員から発言があった。
- ・住民意見に対する対応方針等について関係する構成員から説明があった。

<今後の予定>

- ・次期出水期前を目途に、今年度の取組実績について報告を行うとともに、来年度の取組予定について情報共有を図る予定。



会議の開催状況



第4回 中村川 流域治水 緊急対策 推進会議

<議事(1) 緊急対策の実施状況報告>

鱒ヶ沢町



鱒ヶ沢町長

- ◆今年度は内水解析調査を実施しており、この結果をもとに排水機場の整備や別ルートに排水する等の検討を進めていく。また、内水浸水想定にも着手する。
- ◆この他、出前講座、小中学校での防災教育、避難訓練等を実施し、地域防災力の向上に努める。

青森県危機管理局



危機管理局次長

- ◆「命と暮らしを守る県民総ぐるみの防災減災プロジェクト」の一環として、地域の防災リーダー育成強化を目的とした『地域防災活動ネットワーク研修会』を開催した。研修会では、防災アドバイザーからの講義やグループワークを通じて、地域活動と防災啓発について理解を深めていただいた。

青森県農林水産部



農林水産部次長

- ◆森林整備としては、再造林を推進するため、森林所有者に代わり、森林組合や林業会社等が植林する取組を支援する事業を新たに創設した。
- ◆治山としては、今年度は流域内の治山ダムの嵩上げを実施する。
- ◆田んぼダムの推進のため、流域内の地元の農業者に説明会を実施した。年度内にモデルほ場を決定しPRを進めたい。

青森県県土整備部



県土整備部長

- ◆取組を軌道に乗せるためには、今年度が特に重要と考える。ハード対策には時間がかかるため、ソフト対策も含めた総力戦(＝流域治水)を住民を含めた関係者と一体になって取り組んでいきたい。
- ◆河川激甚災害特別緊急事業、災害復旧事業を地域の方々に目に見える形で進めていく。
- ◆気候変動を踏まえた治水計画や特定都市河川の指定についても検討していく。

西北地域県民局 地域農林水産部



地域農林水産部次長

- ◆田んぼダム推進のため、地元の農業者を対象とした説明会を開催し、鱒ヶ沢町と県で現地調査も実施した。田んぼダムに対する認知度の低さや田んぼダム実施に当たった課題等が確認できた。今後は、取組に積極的な農家の水田をモデルほ場として、せき板の設置等について調整している。

西北地域県民局 地域整備部



地域整備部長

- ◆現場を担当する鱒ヶ沢道路河川事業所と一体となって激特事業、災害復旧やその他のソフト対策等を進めるとともに、関係者の皆様と協力しながら地元対応にもきめ細かく対応していく。
- ◆中村川の流域治水は県内でも先行した事例であるので、モデルケースとなるよう取り組むとともに、気候変動にも対応できるよう皆様と協力して進めていきたい。



第4回 中村川 流域治水 緊急対策 推進会議

<議事(1) 緊急対策の実施状況報告>

西北地域県民局
鱒ヶ沢道路河川事業所



鱒ヶ沢道路河川事業所長

◆中村川の被災した護岸等全18箇所のうち、河口付近の復旧工事は年内に完了する予定である。残りの箇所についても早期の復旧に向けて取り組んでいる。
◆河川改修については、用地取得の完了した箇所から順次、工事にも着手していくとともに、人道橋架け替えに向けた調査・設計を進めていく。

国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林整備センター 東北北海道整備局



青森水源林整備事務所長

◆上木として残す区域と伐採して植え付けをする区域を分ける「複層林化事業」に重点的に取り組んでいるところであり、中村川流域においても今年度は約5ha、来年度は約9haの植付を予定しており、令和15年度までの10年間で取り組むこととしている。

東日本旅客鉄道(株)
秋田支社



設備ユニットリーダー

◆今年度は鉄道橋周辺の測量や地質調査を実施しており、この結果を踏まえて橋の構造や架替方法を検討する比較設計を実施している。架け替えに当たって、隣接する県道の踏切に支障が生じることから、工事中の踏切の扱いについて県に検討をお願いしたい。

林野庁 東北森林管理局
津軽森林管理署



津軽森林管理署次長

◆中村川上流部の国有林において、約60haの下刈を実施している。今後も国有林の保水、土砂流出防止機能を発揮するための森林整備、治山対策に努めていく。

気象庁
青森地方気象台



青森地方気象台長

◆今年度は10月12日に町と協力し鱒ヶ沢中学校の全校生徒を対象に気象台が発する防災気象情報の利活用方法について説明する予定である。この取組は今後5年程継続する予定となっており、自分の命を自分で守ることに繋がるような取組にしていきたい。



第4回 中村川 流域治水 緊急対策 推進会議 ＜議事（2） 住民説明会の結果と今後の対応＞

西北地域県民局
鱒ヶ沢道路河川事業所

①河口の土砂堆積について

平成15年から平成26年にかけて調査検討を実施しており、中小規模の洪水が発生することにより土砂が流出し、かつ洪水の流下にも影響がないことを確認している。
しかしながら、前回の検証から約10年経過しており、河川改修により当時と状況も変化していることから、改めて定期的な測量、調査を実施しており、河川への影響も検討していくこととしている。
なお、土砂が異常に堆積した場合には適切な維持管理に努めることとしている。

②堤防等の災害復旧と河川改修

議事（1）でも説明した通り、既に災害復旧、河川改修には着手しているところではあるが、工事の進捗状況や取組状況が地域住民に伝わっていないということに対して、事業概要の看板の設置や町の広報誌等により住民への周知をこれまで以上に努めていきたいと考えている。

③内水対策

議事（1）で説明した調査・測量は年度内に完了する予定であり、実際に排水機場等を整備するのはその後になるが、業務の進捗を図り、早期に次の段階に進めるよう努めていく。
また、排水機場だけでなく、雨水を河川ではなく海へ直接排水することも視野に検討しているところである。

④ダムや放水路計画

現在の河川整備基本方針は、河川改修で450m³/sを流下させ、洪水調節施設で250m³/sを調節しようという計画であり、この洪水調節施設をどのような施設にするのかを現在検討している。
また、気候変動を考慮した治水対策としては、国土交通省で発出した「流域治水プロジェクト2.0」にもある通り、「平均気温2℃上昇シナリオ」を想定し、上記の基本方針で定めた流量の改定についても検討している。

⑤昨年洪水の浸水メカニズム

河川砂防課では当時の降雨や地形データをもとにシミュレーターソフトによる外水・内水を考慮した氾濫の再現をしている。
一方で、鱒ヶ沢町においても浸水被害調査を進めているところであり、今後それぞれの成果を共有し、整理したものをホームページ等で公表したいと考えている。

鱒ヶ沢町

鱒ヶ沢道路河川事業所長

鱒ヶ沢町長

青森県
県土整備部

河川砂防課長